上柚木公園の野鳥生息調査報告書

（今後の野鳥生息環境の改善に向けた提言を含む）

2014年4月～2017年3月

2017年4月

八王子・日野カワセミ会

はじめに

2014年4月、上柚木公園から野鳥調査の依頼がありました。目的は「上柚木公園は鑓水と由木の間に位置し、園内には日本陸連公認２種の陸上競技場と高校野球予選会場となる野球場などの運動施設がある一方、多摩丘陵の雑木林をその一部に残す八王子市立では最も大きい総合公園です。この公園で聴く野鳥の声や何気なく見かける野鳥がいるのですが、どんな種類の野鳥がいるのかを調査して頂く」というものでした。この依頼を受けて八王子・日野カワセミ会では、直ちに同公園内に生息する野鳥の調査を開始しました。

2014（平成26）年4月から2017年3月まで3か年、実施頻度は毎月1回、ラインセンサス方式を準用し、園内の雑木林、植木等の樹木群、芝草地をカバーするルートを設定して調査を行いました。調査には毎回平均7名の会員が参加し、3か年で47種を観察することができました。47種の内訳は留鳥が多く、渡り鳥が少ないという結果でした。

調査を通じ、公園内には野鳥の生息に適した場所が何か所もあることが明らかになりました。このような場所を基本にさらなる対策を行えば公園内の生物多様性は高まり、観察される野鳥の種類も増えていく可能性が高いことも明らかになり、そのためにいくつかの提言をまとめました。

提言した内容は直ちに実現できるものではありませんが、今後長い年月をかけて少しずつ改善されることにより、この公園の自然環境がさらに豊かになり、スポーツ施設を利用する人だけでなく、自然を感じながら気軽に散策する人が多く訪れる公園に成長し続けていくことを祈念します。

2017年4月
八王子・日野カワセミ会
会長　粕谷和夫

目 次

はじめに
１．上柚木公園の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
２．野鳥調査の実施経緯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
（１）調査の開始
（２）調査の期間と実施頻度
（３）実施ルート
（４）調査の内容と方法
（５）調査の実施者と参加者数
３．調査結果 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
（１）3か年のデータ
（２）観察された種類数
（３）季節区分
（４）種別の観察頻度
（５）種別の占有率
（６）繁殖行動
（７）種別の生息状況
（８）野鳥の生育にとって特に重要な場所
４．特記事項 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
５．考察 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
（１）種数
（２）季節区分からみた野鳥の構成種
（３）複合運動場という環境の中の緑の役割
６．今後に対する提言等 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
（１）斜面草地の役割の認識と適切な管理
（２）水辺環境の整備
（３）郷戸地区の北側の遊歩道の確保
（４）雑木林の存在と管理
（５）野鳥が好む木の植栽
（６）巣箱の設置
（７）大栗川との一体化を図る
（８）いつまでも成長する公園を目指す
（９）身近な野鳥の観察の継続
７．調査参加者の感想、提言等 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
８．野鳥以外の生きものの観察結果 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24

１．上柚木公園の概要

上柚木公園の所在地は東京都八王子市上柚木で、鑓水と由木の間にあって、京王相模原線・南大沢駅の北西、徒歩18分の位置にある。バス利用の場合はＪＲ八王子駅南口から「南大沢駅」行で陸上競技場前のバス停下車である。

上柚木公園は1966年（昭和41年）から始まった多摩ニュータウン造成の際に作られた公園で、複合運動場を主体とした総合公園である。面積は21ヘクタールと広大で、多摩丘陵の一角を占めているため雑木林等の比較的豊かな自然環境に囲まれ、北側に隣接して大栗川が流れている。

公園内には、陸上競技場、野球場、ソフトボール場、テニスコートの4つの有料屋外運動施設のほか、遊具を備えた児童遊園や展望台のある広大な芝生の丘などをそろえ、スポーツと憩いの場として親しまれている。公園内の展望台では多摩ニュータウン西部を一望できる。

園内は上柚木地区、中央地区、郷戸地区の3つのエリアに区分されている。上柚木地区は野球場・テニスコートがあるエリアで、公園内最大の駐車場がある。中央地区には、陸上競技場があり、郷戸地区にはソフトボール場の他、多目的広場、芝生の丘がある。

八王子市立公園であるが、現在は（公財)八王子市学園都市文化ふれあい財団（指定管理者）により管理運営されている。

上柚木公園　園内マップ

２．野鳥調査の実施経緯

（１）調査の開始

2014（平成26）年4月18日、上柚木公園管理責任者の設楽氏から八王子・日野カワセミ会粕谷和夫会長のもとに八王子市役所からの紹介とういうことで野鳥調査の依頼があった。依頼の目的は以下のとおりである。「上柚木公園は鑓水と由木の間に位置し、園内には日本陸連公認２種の陸上競技場と高校野球予選会場となる野球場などの運動施設がある一方、多摩丘陵の雑木林をその一部に残す八王子市立では最も大きい総合公園です。この公園で聴く野鳥の声や何気なく見かける野鳥がいるのですが、どんな種類の野鳥がいるのかを調査して頂くことが目的です」。この依頼を受けてカワセミ会では、直ちに同公園内に生息する野鳥の調査を開始した。

（２）調査の期間と実施頻度

2014（平成26）年4月から2017（平成29）年3月まで3か年実施した。実施頻度は毎月1回としたが、野鳥が少なくなる7月と8月は除外して、年10回とした。したがって全調査回数は30回である。

（３）実施ルート

調査はラインセンサス方式を準用することとし、調査ルートを決めて毎回同じルートを踏査した。ルートは園内の雑木林、植木等樹木群、芝草地は全てカバーすることを基準に選定した。順路は次ページの図矢印の通りで中央地区の陸上競技場のある管理事務所をスタートし、上柚木地区の野球場、雑木林を一周した後に中央地区の北側から郷戸地区に出て北側を一周してスタート地点に戻るものである。北側に大栗川があるが、ここは調査対象地区外とし、同川で観察される野鳥はカウント対象としなかった。

上柚木公園　探鳥コースマップ

（４）調査の内容と方法

カワセミ会が2014年に作成した「定期カウントマニュアル(～残そう！今の野鳥記録､楽しもう！野鳥カウント～）」に従って実施した。具体的には､ルートを踏査して､概ね半径200mの範囲内に出現する野鳥の姿や鳴き声により識別し、種毎に羽数をカウントした。観察用具は双眼鏡を使用した。

観察時間は毎回8時30分にスタートし、10時30分頃にゴールすることを基本としたが、2015年4月は6時00分～8時15分の早朝､2014年4月と2017年1月は午後に実施した。

ゴール後は参加者全員により通称「鳥合わせ」を行い、当日のカウント結果を確認した。

（５）調査の実施者と参加者数

調査は粕谷和夫をキャップにカワセミ会会員に参加を呼びかけ、その都度都合つく会員が毎回参加した。粕谷和夫が29回と最も多く、ほぼ3分の2に当たる19回以上の参加者も工藤正子、対中義雄、浜野建男、広岡房江、武藤邦子、渡辺正樹と6名を超えた。1回だけ参加の会員を含め18名が参加し、1回当たりの平均参加者数は7名であった。

調査参加者一覧（日別）

年月日	粕谷和夫	板倉正	宇都宮信子	門口一雄	工藤正子	小太刀昭夫	小太刀菊子	対中義雄	浜野建男	原田佳世	平賀甫	久野弓子	広岡房江	氷渡トシ子	武藤邦子	村田靖雄	山崎悠一	渡辺正樹	参加者数
2014 4/25	●																		1
5/20	●								●				●						3
6/17	●				●								●						3
9/18	●				●				●						●			●	5
10/16	●				●	●	●	●	●				●		●			●	9
11/19	●	●				●	●		●				●		●			●	8
12/17	●							●	●			●	●					●	6
2015 1/15	●				●				●						●		●	●	6
2/20	●				●													●	3
3/18	●				●	●	●	●	●			●	●		●			●	10
4/16	●			●	●			●	●				●		●	●		●	9
5/21	●			●	●	●	●	●	●	●		●	●		●			●	12
6/18	●			●	●					●		●	●		●			●	8
9/10	●							●	●						●			●	5
10/15	●			●	●	●	●	●	●	●			●		●			●	11
11/12	●			●	●	●	●	●	●	●			●		●			●	11
12/10	●			●	●	●	●	●					●		●			●	9
2016 1/14	●					●	●	●				●	●		●				7
2/18	●			●	●				●	●					●			●	7
3/17	●			●	●	●	●	●	●				●					●	9
4/15	●																	●	2
5/12	●			●		●	●	●	●	●	●				●			●	10
6/15	●			●		●	●	●	●			●			●			●	9
9/15	●							●	●		●				●				5
10/13					●	●	●	●	●						●			●	7
11/15	●				●	●	●	●	●		●		●		●			●	10
12/15	●				●	●	●	●			●		●						7
2017 1/18	●										●		●					●	4
2/16	●			●	●			●			●		●		●			●	8
3/16	●		●	●	●			●	●		●		●	●	●			●	11
計	29	1	1	12	19	14	14	19	20	6	7	6	19	1	21	1	1	24	

３．調査結果

（１）3か年のデータ

カウントデータは以下の通りである。種名の前の番号は日本鳥類目録第7版（日本鳥学会編）による。

2014年度　上柚木公園　野鳥定期カウント結果

		2014	2014	2014	2014	2014	2014	2014	2015	2015	2015	計	回数	最大
	月日	4/25	5/20	6/17	9/18	10/16	11/19	12/17	1/15	2/20	3/18			
	天気	晴れ	晴れ	晴れ	曇り	晴れ	晴れ	晴れ	曇り後雨	晴れ	晴れ			
	開始時刻	13:15	8:30	8:30	8:30	8:30	8:30	8:30	8:30	8:40	8:30			
	終了時刻	15:50	10:25	10:30	10:30	11:00	10:30	10:25	9:50	10:30	10:45			
	参加者	粕谷和夫、設楽	粕谷和夫、浜野建男、広岡房江	粕谷和夫、工藤正子、広岡房江	粕谷和夫、工藤正子、浜野建男、武藤邦子、渡辺正樹	粕谷和夫、工藤正子、小太刀昭夫、小太刀菊子、対中義雄、浜野建男、広岡房江、武藤邦子、渡辺正樹	粕谷和夫、板倉正、工藤正子、小太刀昭夫、小太刀菊子、浜野建男、久野、広岡房江、武藤邦子、渡辺正樹	粕谷和夫、対中義雄、浜野建男、久野、広岡房江、渡辺正樹	粕谷和夫、工藤正子、浜野建男、武藤邦子、山崎悠一、渡辺正樹	粕谷和夫、工藤正子、渡辺正樹	粕谷和夫、工藤正子、小太刀昭夫、小太刀菊子、対中義雄、浜野建男、久野弓子、広岡房江、武藤邦子、渡辺正樹			
5	キジ													
32	カルガモ													
74	キジバト	4	4	11	5	8	7	2	16	3	8	68	10	16
144	アオサギ		2									2	1	2
185	ホトトギス		1	1								2	2	1
193	ヒメアマツバメ													
203	コチドリ													
342	トビ													
354	ツミ	2										2	1	2
356	オオタカ													
390	コゲラ		2		3	3	1	4		2	2	17	7	4
393	アカゲラ									1		1	1	1
397	アオゲラ	1	1	1				1			1	5	5	1
401	チョウゲンボウ						1	1				2	2	1
420	モズ	1		6	1	1	1		1	1	3	15	8	6
429	オナガ	10	10	9						10		39	4	10
435	ハシボソガラス	2		4	4	3	4	6	7	7	2	39	9	7
436	ハシブトガラス	4		3	35	50	12	4	5	7	5	125	9	50
442	ヤマガラ				2			2		4	6	14	4	6
445	シジュウカラ	4	6	5	10	16	14	15	6	10	11	97	10	16
457	ツバメ	1	2	5								8	3	5
461	イワツバメ													
463	ヒヨドリ	10	13	18	12	70	41	14	3	7	12	200	10	70
464	ウグイス	1	1	1								3	3	1
466	エナガ				10		20	2		7	6	45	5	20
485	メジロ	2	2	2		16	10	6	6			44	7	16
506	ムクドリ	30	4	90		2	2			3	10	141	7	90
521	シロハラ							1		1		2	2	1
522	アカハラ													
461	イワツバメ													
525	ツグミ	7					3		8	9	11	38	5	11
540	ジョウビタキ						1	1	1			3	3	1
558	キビタキ													
569	スズメ	4	10	6	50	55	23	11	10	2	6	177	10	55
573	キセキレイ	2										2	1	2
574	ハクセキレイ	1				2	4	1	2	3	1	14	7	4
575	セグロセキレイ	1										1	1	1
580	ビンズイ										3	3	1	3
586	アトリ													
587	カワラヒワ						30	27	90	6	76	229	5	90
600	シメ								2		1	3	2	2
602	イカル		2									2	1	2
610	ホオジロ									2	2	4	2	2
617	カシラダカ						3	2	30	30	6	71	5	30
624	アオジ						2	2	1	4		9	4	4
901	コジュケイ										2	2	1	2
903	ドバト				1			50			1	52	3	50
909	ガビチョウ	4		2	2	4	3	2			4	21	7	4
	不明鳥				1						3	4	2	3
	羽数計	91	60	164	136	230	182	154	188	119	182			
	種数計	19	14	15	13	12	19	20	15	20	23			

2015年度　上柚木公園　野鳥定期カウント結果

	年	2015	2015	2015	2015	2015	2015	2015	2016	2016	2016	計	回数	最大
	月日	4/16	5/21	6/18	9/10	10/15	11/12	12/10	1/14	2/18	3/17			
	天気	晴れ	晴れ	曇り	曇り	晴れ	曇り	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ			
	開始時刻	6:00	8:30	8:30	8:30	8:30	8:30	8:30	8:35	8:35	8:35			
	終了時刻	8:15	10:45	10:30	10:05	10:30	10:45	10:55	10:55	10:45	11:00			
	参加者	粕谷和夫、門口一雄、工藤正子、対中義雄、浜野建男、広岡房江、武藤邦子、村田靖雄、渡辺正樹	粕谷和夫、門口一雄、工藤正子、小太刀昭夫、小太刀菊子、対中義雄、浜野建男、原田佳世、久野弓子、広岡房江、武藤邦子、渡辺正樹	粕谷和夫、門口一雄、工藤正子、原田佳世、久野弓子、広岡房江、武藤邦子、渡辺正樹、	粕谷和夫、対中義雄、浜野建男、武藤邦子、渡辺正樹、	粕谷和夫、門口一雄、工藤正子、小太刀昭夫、小太刀菊子、対中義雄、浜野建男、原田佳世、広岡房江、武藤邦子、渡辺正樹	粕谷和夫、門口一雄、工藤正子、小太刀昭夫、小太刀菊子、対中義雄、浜野建男、原田佳世、広岡房江、武藤邦子、渡辺正樹	粕谷和夫、門口一雄、工藤正子、小太刀昭夫、小太刀菊子、対中義雄、広岡房江、武藤邦子、渡辺正樹	粕谷和夫、小太刀昭夫、小太刀菊子、対中義雄、久野弓子、広岡房江、武藤邦子	粕谷和夫、門口一雄、工藤正子、浜野建男、原田佳世、武藤邦子、渡辺正樹	粕谷和夫、門口一雄、工藤正子、小太刀昭夫、小太刀菊子、対中義雄、浜野建男、広岡房江、渡辺正樹			
5	キジ		1									1	1	1
32	カルガモ	3										3	1	3
74	キジバト	11	5	6	6	6	3	22	18	10	10	97	10	22
144	アオサギ	2										2	1	2
185	ホトトギス		1									1	1	1
193	ヒメアマツバメ	3		1	1							5	3	3
203	コチドリ			1								1	1	1
342	トビ					1	1	1			1	4	4	1
354	ツミ													
356	オオタカ		1					1	1			3	3	1
390	コゲラ	7	2	4		4	4	2	2	4	3	32	9	7
393	アカゲラ													
397	アオゲラ		1	1			1	1	1	1		6	6	1
401	チョウゲンボウ						1		1			2	2	1
420	モズ	1	2	2		5	3	1	1	1	1	17	9	5
529	オナガ				2							2	1	2
435	ハシボソガラス	2	3	7	7	5	7	7	4	9	2	53	10	9
436	ハシブトガラス	13	6	3	1	6	2	5	6	8	6	56	10	13
442	ヤマガラ	2		2	1	3	2	2		2		14	7	3
445	シジュウカラ	14	10	19	8	10	8	15	4	22	25	135	10	25
457	ツバメ	3	4	15								22	3	15
461	イワツバメ	5										5	1	5
463	ヒヨドリ	40	18	20	14	35	50	55	26	3	15	276	10	55
464	ウグイス	2	3	3			2	1	1		4	16	7	4
466	エナガ	5		2		15	2	20		7	5	56	7	20
485	メジロ	4	6	10		6	34	15	9	10	16	110	9	34
506	ムクドリ	8	12	25		5	23	30	2	5	11	121	9	30
521	シロハラ							1	3	3	1	8	4	3
522	アカハラ	1										1	1	1
525	ツグミ	22						1	3	12	9	47	5	22
540	ジョウビタキ						1	2	1			4	3	2
558	キビタキ													
569	スズメ	6	6	10	33	10	50		3	15	2	135	9	50
573	キセキレイ	1	2									3	2	2
574	ハクセキレイ	3	1	4	3	9	4	5	2	2	1	34	10	9
575	セグロセキレイ			1								1	1	1
580	ビンズイ													
586	アトリ													
587	カワラヒワ	55	2				30	6	30	75	20	218	7	75
600	シメ						1		2	3		6	3	3
602	イカル										21	21	1	21
610	ホオジロ	1					5	1	2		2	11	5	5
617	カシラダカ						2		15	20	20	57	4	20
624	アオジ	3					1	1	3	3	1	12	6	3
901	コジュケイ		2		4						2	8	3	4
903	ドバト						100	30	30	3		163	4	100
909	ガビチョウ	8	5	4	2		2	3	2	5	2	33	9	8
	不明鳥													
	羽数計	225	93	140	82	120	339	228	172	223	180			
	種類数計	26	21	20	12	14	25	24	25	22	23			

2016年度　上柚木公園　野鳥定期カウント結果

	年	2016	2016	2016	2016	2016	2016	2016	2017	2017	2017	計	回数	最大
	月日	4/15	5/12	6/15	9/15	10/13	11/15	12/15	1/18	2/16	3/16			
	天気	晴れ	晴れ	曇り後小雨	曇り一時雨	晴	晴	晴	晴	晴	晴			
	開始時刻	9:30	8:30	8:30	8:35	8:35	8:30	8:30	13:00	8:30	8:30			
	終了時刻	10:45	10:30	10:15	10:15	10:40	10:25	10:50	15:30	10:15	11:30			
	参加者	粕谷和夫、渡辺正樹	粕谷和夫、門口一雄、小太刀昭夫、小太刀菊子、対中義雄、浜野建男、原田佳世、平賀甫、武藤邦子、渡辺正樹	粕谷和夫、門口一雄、小太刀昭夫、小太刀菊子、坂本、対中義雄、浜野建男、久野弓子、武藤邦子、渡辺正樹	粕谷和夫、対中義雄、浜野建男、平賀甫、武藤邦子	浜野建男、工藤正子、小太刀昭夫、小太刀菊子、対中義雄、武藤邦子、渡辺正樹	粕谷和夫、工藤正子、小太刀昭夫、小太刀菊子、対中義雄、浜野建男、平賀甫、広岡房江、武藤邦子、渡辺正樹	粕谷和夫、工藤正子、小太刀昭夫、小太刀菊子、対中義雄、平賀甫、広岡房江	粕谷和夫、平賀甫、広岡房江、渡辺正樹	粕谷和夫、門口一雄、工藤正子、対中義雄、広岡房江、平賀甫、武藤邦子、渡辺正樹	粕谷和夫、宇都宮信子、門口一雄、工藤正子、対中義雄、浜野建男、平賀甫、広岡房江、氷渡トシ子、武藤邦子、渡辺正樹			
5	キジ													
32	カルガモ				3						3	6	2	3
74	キジバト	5	6	12	4	5	4	9	15	12	7	79	10	15
144	アオサギ			2								2	1	2
185	ホトトギス			1								1	1	1
193	ヒメアマツバメ				1							1	1	1
203	コチドリ													
342	トビ										1	1	1	1
354	ツミ													
356	オオタカ							1				1	1	1
390	コゲラ	1	3	2	1	3	4	3	6	4	5	32	10	6
393	アカゲラ													
397	アオゲラ		2	2		1	1	1				7	5	2
401	チョウゲンボウ			1							1	2	2	1
420	モズ			2	2	4	3	3	2	3	2	21	8	4
529	オナガ					1						1	1	1
435	ハシボソガラス	5	1	4		13	2	11	2	6	4	48	9	13
436	ハシブトガラス	1	5	12	5	22		6	2	6	6	65	9	22
442	ヤマガラ					3	4	2	4	2	4	19	6	4
445	シジュウカラ	12	10	15	10	11	27	8	16	27	17	153	10	27
457	ツバメ	2	2	4								8	3	4
461	イワツバメ													
463	ヒヨドリ	30	35	21	35	23	55	26	8	10	20	263	10	55
464	ウグイス	3		1					2	2		8	4	3
466	エナガ		4			10			10	6	2	32	5	10
485	メジロ		6	4	40	4	25	25	7	3	14	128	9	40
506	ムクドリ	23	7		4	34	5	4		7	4	88	8	34
521	シロハラ									1		1	1	1
522	アカハラ													
525	ツグミ	12					3	10	3	3	4	35	6	12
540	ジョウビタキ						1		1	3		5	3	3
558	キビタキ		3									3	1	3
569	スズメ	2	10	12	6	35	3		1	4		73	8	35
573	キセキレイ		1									1	1	1
574	ハクセキレイ			3	4	7	6	6	2	4	4	36	8	7
575	セグロセキレイ	1				1		1		1		4	4	1
580	ビンズイ													
586	アトリ									80	8	88	2	80
587	カワラヒワ	2	3	1	2	5	15	100	50	100	30	308	10	100
600	シメ							10	15	36	16	77	4	36
602	イカル													
610	ホオジロ													
617	カシラダカ									8	10	18	2	10
624	アオジ							1		2	1	4	3	2
901	コジュケイ	2		2		3					1	8	4	3
903	ドバト													
909	ガビチョウ	2	8	12	2	2	10	8		8	6	58	9	12
	不明鳥													
	羽数計	103	106	113	119	187	168	235	146	338	170			
	種類数計	15	16	19	14	19	16	19	17	24	23			

（２）観察された種類数

全体で47種が確認された。出現した野鳥の季節区分毎の一覧は下表のとおりである。

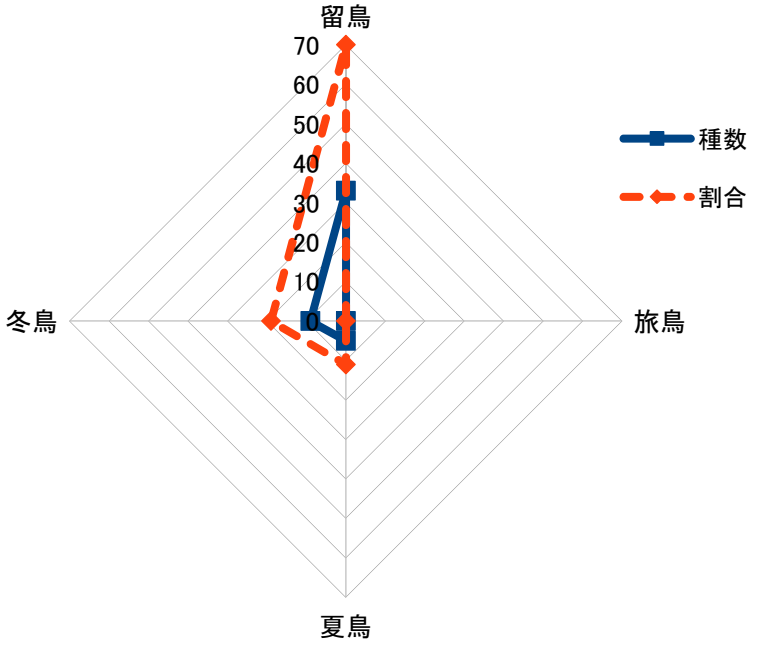
2014年度～2016年度の出現種

	種名	季節区分		種名	季節区分		種名	季節区分
5	キジ	留鳥	442	ヤマガラ	留鳥	909	ガビチョウ	留鳥
32	カルガモ	留鳥	445	シジュウカラ	留鳥	521	シロハラ	冬鳥
74	キジバト	留鳥	463	ヒヨドリ	留鳥	522	アカハラ	冬鳥
144	アオサギ	留鳥	464	ウグイス	留鳥	525	ツグミ	冬鳥
193	ヒメアマツバメ	留鳥	466	エナガ	留鳥	540	ジョウビタキ	冬鳥
342	トビ	留鳥	485	メジロ	留鳥	580	ビンズイ	冬鳥
354	ツミ	留鳥	506	ムクドリ	留鳥	586	アトリ	冬鳥
356	オオタカ	留鳥	569	スズメ	留鳥	600	シメ	冬鳥
390	コゲラ	留鳥	573	キセキレイ	留鳥	617	カシラダカ	冬鳥
393	アカゲラ	留鳥	574	ハクセキレイ	留鳥	624	アオジ	冬鳥
397	アオゲラ	留鳥	575	セグロセキレイ	留鳥	185	ホトトギス	夏鳥
401	チョウゲンボウ	留鳥	587	カワラヒワ	留鳥	203	コチドリ	夏鳥
420	モズ	留鳥	602	イカル	留鳥	457	ツバメ	夏鳥
429	オナガ	留鳥	610	ホオジロ	留鳥	461	イワツバメ	夏鳥
435	ハシボソガラス	留鳥	901	コジュケイ	留鳥	558	キビタキ	夏鳥
436	ハシブトガラス	留鳥	903	ドバト	留鳥		不明鳥	
							種数計	47

（３）季節区分

季節区分の割合は下図の通りで、留鳥が最も多く、次いで冬鳥が9種、夏鳥は5種であった。春と秋の渡りの季節に一時的に立ち寄る「旅鳥」は1種も観察されなかった。

2014年度～2016年度　季節区分



（４）種別の観察頻度

全30回の観察回数に対し、何回出現したかを「観察頻度」として計算した結果が次表である。

2014年度～2016年度　上柚木公園　野鳥出現頻度

	区分		回数			計	頻度		区分		回数			計	頻度
	年度		2014	2015	2016		%		年度		2014	2015	2016		%
74	キジバト	留鳥	10	10	10	30	100	521	シロハラ	冬鳥	2	4	1	7	23
445	シジュウカラ	留鳥	10	10	10	30	100	610	ホオジロ	留鳥	2	5		7	23
463	ヒヨドリ	留鳥	10	10	10	30	100	903	ドバト	留鳥	3	4		7	23
435	ハシボソガラス	留鳥	9	10	9	28	93	401	チョウゲンボウ	留鳥	2	2	2	6	20
436	ハシブトガラス	留鳥	9	10	9	28	93	429	オナガ	留鳥	4	1	1	6	20
569	スズメ	留鳥	10	9	8	27	90	575	セグロセキレイ	留鳥	1	1	4	6	20
390	コゲラ	留鳥	7	9	10	26	87	342	トビ	留鳥		4	1	5	17
420	モズ	留鳥	8	9	8	25	83	185	ホトトギス	夏鳥	2	1	1	4	13
485	メジロ	留鳥	7	9	9	25	83	193	ヒメアマツバメ	留鳥		3	1	4	13
574	ハクセキレイ	留鳥	7	10	8	25	83	356	オオタカ	留鳥		3	1	4	13
909	ガビチョウ	留鳥	7	9	9	25	83	573	キセキレイ	留鳥	1	2	1	4	13
506	ムクドリ	留鳥	7	9	8	24	80	32	カルガモ	留鳥		1	2	3	10
587	カワラヒワ	留鳥	5	7	10	22	73	144	アオサギ	留鳥	1	1	1	3	10
442	ヤマガラ	留鳥	4	7	6	17	57	586	アトリ	冬鳥			2	2	7
466	エナガ	留鳥	5	7	5	17	57	602	イカル	留鳥	1	1		2	7
397	アオゲラ	留鳥	5	6	5	16	53	5	キジ	留鳥		1		1	3
525	ツグミ	冬鳥	5	5	6	16	53	203	コチドリ	夏鳥		1		1	3
464	ウグイス	留鳥	3	7	4	14	47	354	ツミ	留鳥	1			1	3
624	アオジ	冬鳥	4	6	3	13	43	393	アカゲラ	留鳥	1			1	3
617	カシラダカ	冬鳥	5	4	2	11	37	461	イワツバメ	夏鳥		1		1	3
457	ツバメ	夏鳥	3	3	3	9	30	522	アカハラ	冬鳥		1		1	3
540	ジョウビタキ	冬鳥	3	3	3	9	30	558	キビタキ	夏鳥			1	1	3
600	シメ	冬鳥	2	3	4	9	30	580	ビンズイ	冬鳥	1			1	3
901	コジュケイ	留鳥	1	3	4	8	27		不明鳥	不明	2			2	7

キジバト、シジュウカラ、ヒヨドリの3種は毎回必ず出現した。ハシボソガラス、ハシブトガラス、スズメの3種も90%以上の出現であった。

73%のカワラヒワまでの上位13種はこの公園の常連種と見做される。一方でカルガモからビンズイまでの10%以下のものは、この公園では希少種といえる。

ツグミ、アオジ、カシラダカ、ジョウビタキ、シメ等の冬鳥や夏鳥のツバメは渡り鳥であるので、この表では頻度の数値が小さいが、これ等の鳥の渡来月数を分母にすれば100%近くなることを付記する。

ホオジロ、ドバトは2016年の出現はないが、前2年に7回出現したので比較的上位に位置づけられた。

（５）種別の占有率

全30回の全出現羽数4,989羽に対し、種別の出現割合を「占有率」として計算した結果が次ページの表である。ヒヨドリ、カワラヒワの2種だけで30%を占め、ハシボソガラスまでの上位10種で76%を占めた。エナガ、カシラダカ、アトリ、シメなどが比較的上位に来ているのは、これ等の種は集団で飛来することによる。

2014 年度～2016 年度　上柚木公園　羽数からみた占有率

	区分		羽数計				占有率		区分		羽数計				占有率
	年度		2014	2015	2016	計	%		年度		2014	2015	2016	計	%
463	ヒヨドリ	留鳥	200	276	263	739	15	5	キジ	留鳥		1		1	0
587	カワラヒワ	留鳥	229	218	308	755	15	32	カルガモ	留鳥		3	6	9	0
445	シジュウカラ	留鳥	97	135	153	385	8	144	アオサギ	留鳥	2	2	2	6	0
569	スズメ	留鳥	177	135	73	385	8	185	ホトトギス	夏鳥	2	1	1	4	0
506	ムクドリ	留鳥	141	121	88	350	7	193	ヒメアマツバメ	留鳥		5	1	6	0
485	メジロ	留鳥	44	110	128	282	6	203	コチドリ	夏鳥		1		1	0
74	キジバト	留鳥	68	97	79	244	5	342	トビ	留鳥		4	1	5	0
436	ハシブトガラス	留鳥	125	56	65	246	5	354	ツミ	留鳥	2			2	0
903	ドバト	留鳥	52	163		215	4	356	オオタカ	留鳥		3	1	4	0
435	ハシボソガラス	留鳥	39	53	48	140	3	393	アカゲラ	留鳥	1			1	0
466	エナガ	留鳥	45	56	32	133	3	397	アオゲラ	留鳥	5	6	7	18	0
617	カシラダカ	冬鳥	71	57	18	146	3	401	チョウゲンボウ	留鳥	2	2	2	6	0
390	コゲラ	留鳥	17	32	32	81	2	461	イワツバメ	夏鳥		5		5	0
525	ツグミ	冬鳥	38	47	35	120	2	521	シロハラ	冬鳥	2	8	1	11	0
574	ハクセキレイ	留鳥	14	34	36	84	2	522	アカハラ	冬鳥		1		1	0
586	アトリ	冬鳥			88	88	2	540	ジョウビタキ	冬鳥	3	4	5	12	0
600	シメ	冬鳥	3	6	77	86	2	558	キビタキ	夏鳥			3	3	0
909	ガビチョウ	留鳥	21	33	58	112	2	573	キセキレイ	留鳥	2	3	1	6	0
420	モズ	留鳥	15	17	21	53	1	575	セグロセキレイ	留鳥	1	1	4	6	0
429	オナガ	留鳥	39	2	1	42	1	580	ビンズイ	冬鳥	3			3	0
442	ヤマガラ	留鳥	14	14	19	47	1	602	イカル	留鳥	2	21		23	0
457	ツバメ	夏鳥	8	22	8	38	1	610	ホオジロ	留鳥	4	11		15	0
464	ウグイス	留鳥	3	16	8	27	1	901	コジュケイ	留鳥	2	8	8	18	0
624	アオジ	冬鳥	9	12	4	25	1		不明鳥		4				
									羽数計					4,989	100

（６）繁殖行動

繁殖行動は以下の10種が観察された。この他にもキジバト、ヒヨドリ、ガビチョウなどが繁殖している可能性はあるが、具体的な繁殖行動を確認することはできなかった。

①コゲラ（巣立ち雛連れの親子が観察できた）

②アオゲラ（野球場近くの雑木林の枯れたクリの木に営巣、掘りたての新しい巣があり、その近くにオス、メス2羽がいた）

③モズ（斜面草地の北側にある繁みではメスが体を全身で震わせる求愛ディスプレイや巣立ち雛を連れた親子連れのような営巣行動が観察された）

④オナガ（巣立ち雛の混じる群れがカラスを追い払っていた）

⑤ハシボソガラス（野球場の北側の雑木林で巣作りをしていた）

⑥ハシブトガラス（親子連れが観察されるので、園内かその周辺で繁殖していると思われる）

⑦シジュウカラ(野球場の外壁の排水穴に入って、出て来なかったので、穴の中に巣があるらしいことが推定された。繁殖期には親子連れが観察される）

⑧ウグイス（4～6月の繁殖期にさえずりが聞こえるので、繁殖もしていると推定される）

⑨エナガ（野球場付近で巣材運びをしていた。繁殖行動と見られる）

⑩メジロ（非繁殖期にメジロのものと思われる古巣が観察されたので､繁殖していると思われる）

（７）種別の生息状況

出現した47種についての特記事項を以下に示す。

5 キジ　2015.5.21に1回出ただけで、オスが野球場東側の雑木林にいた。

32 カルガモ　2015.4.16と2017.3.16の2回出ただけで、いずれも上空を通過したもの。公園内にはカルガモが生息できる水辺環境がない。

74 キジバト　毎回必ず出現する。木にとまっている姿や地上で採餌している姿が観察される。単独、2羽でいる事が多いが、数羽～数十羽でいる事もある。1回当たりの最大羽数の記録は2015.12.10の22羽である。野球場東側の斜面草地は餌場としてよく利用される。

144 アオサギ　1回だけの記録で2014.5.20に2羽が上空を西に向かって飛んで行った。公園内にはアオサギが生息できる水辺環境がない。

185 ホトトギス　2014年に2回（5月と6月）、2015年に1回（5月）、2016年に1回（6月）声を聞いた。

193 ヒメアマツバメ　2015年に3回（4,6,9月）、2016年に1回（9月）に上空飛翔が観察された。

203 コチドリ　1回だけの記録で、2015.6.18に陸上競技場の芝生とトラックの境目の所に来ていた。

342 トビ　2015年に3回（10,11,12月）、2016年に1回（3月）、2017年に1回（3月）の5回出たが、いずれも上空を旋回したもの。

354 ツミ　2014.4.25にオスメス2羽が一緒に雑木林にいるのを観察した。繁殖を期待したが、その後の出現はなかった。

356 オオタカ　2015 年に 2 回（5,12 月）、2016 年に 2 回（3、12 月）の 4 回出た。狩場としての飛来と思われる。2015.5.21 は 2 羽のカラスに追いかけられていた。2015.12.10 は突然現れて飛んでいるキジバトかドバトを狙って急降下した。

390 コゲラ　出現率87%で、雑木林に殆ど毎回出現する。シジュウカラ、エナガなどとの混群の中にいる事が多い。1回当たり3羽、4羽のことが多いが、2015.4.16には7羽が出た。2015.6.18に巣立ち雛連れの親子が観察できた。

393 アカゲラ　1回だけの記録で、2015.2.20にテニスコートから大栗川へ下る雑木林の道で出合った。

397 アオゲラ　出現率53%で、雑木林で2回に1回の割合で出合う。テニスコートから大栗川へ下る雑木林と野球場の北側の雑木林で出合うこと

が多い。2016/5/12に野球場近くの雑木林の枯れたクリの木に営巣、掘りたての新しい巣があり、その近くにオスメス2羽がいた。

401 チョウゲンボウ　出現率20%で、あまり高くない。上空に現れて旋回し、陸上競技場の照明塔、高圧線の鉄塔や電線に止まることもある。

420 モズ　出現率83%で、殆ど毎回出現する。秋には高鳴きが観察される。2015.10.15には高鳴きが広範囲にあり、5羽が観察された。うちオス2羽、メス2羽、オスメス不明1羽であった。野球場東側の斜面草地が餌場になっている。野球場東側の斜面草地の北側にある繁みではメスが体を全身で震わせる求愛ディスプレイや巣たち雛を連れた親子連れのような営巣行動が観察された。

429 オナガ　出現率20%で、あまり高くない。2014.6.17に巣立ち雛の混じる群れがカラスを追い払っていた。

435 ハシボソガラス　出現率93%で、ほぼ毎回出現するが、10羽以内のことが多い。野球場東側の斜面の刈られた草地にはカワラヒワ、カシラダカ、シメなどと一緒に地上に降りて採餌している。2016.4.16に野球場の北側の雑木林で巣作りをしていた。

436 ハシブトガラス　出現率93%で、ほぼ毎回出現する。10羽以内のことが多いが、30羽以上の集団が現れることもある。親子連れが観察されるので、園内かその周辺で繁殖していると思われる。

442 ヤマガラ　出現率57%で、雑木林で2回の1回以上の割合で出合う。シジュウカラ、メジロ、コゲラなどの混群中にいる事が多い。

445 シジュウカラ　出現率100%で毎回出現する。1回当たりの出現羽数は、2016.11.15と2017.2.16の27羽が最大である。ヤマガラ、エナガ、コゲラなどの混群の中にいること、シジュカラ単独でいること等様々である。2015.4.16に野球場の外壁の排水穴に入って、出て来なかったので、穴の中に巣があるらしいことが推定された。繁殖期には親子連れが観察される。2016.5.12には巣立ち直前と見られる雛の死体2羽が園内道路にあった。

457 ツバメ　園内に採餌のため飛来するが、5羽以内のことが多い。1回当たりの出現羽数の最大は2015.6.18の15羽である。園内に巣はない。

461 イワツバメ　2015.4に1度飛来しただけである。

463 ヒヨドリ　園内のどこにでも、いつでもいる。春と秋には渡り途中と思われる30羽前後の群れが観察できる。

464 ウグイス　出現率53%で、2回に1回の割合で観察されるが羽数は4羽以内と多くない。藪の中にいるので目立たない。冬は地鳴きが聞こえる。4～6月の繁殖期にさえずりが聞こえるので、繁殖もしていると推定される。

466 エナガ　出現率57%で、雑木林で2回に1回以上の割合で出合う。非繁殖期にはシジュウカラ、メジロ、コゲラなどの混群中にいる事が多い。混群中ではエナガの羽数が最も多く、20羽になることもある。2016.3.17に野球場付近で巣材運びをしていた。繁殖行動と見られる。

485 メジロ　出現率83%で、殆ど毎回出現する。シジュウカラ、エナガ、コゲラなどの混群中にいる事が多いがメジロだけの単独で行動していることも少なくない。1回当たりの出現羽数の最大は2016.9.15の40羽である。ヤブツバキやヤマザクラの花に来て吸蜜する。柿の実も大好きである。春先には雑木林に樹液を吸いに集まることがある。非繁殖期にメジロのものと思われる古巣が観察されたので、繁殖していると思われる。

506 ムクドリ　出現率80%で、殆ど毎回出現する。陸上競技場、野球場などの芝生で採餌していることが多い。野球場東側の斜面草地でもよく採餌している。ヤマモモやクワの実にも集団で食べに来る。1回当たりの出現羽数の最大は2014.6.17の90羽である。

521 シロハラ　出現率20%で、あまり高くない。羽数も3羽以下で少ない。上柚木地区と中央地区の境の山吹橋の下のような樹木林の下のうす暗い環境の所で観察される。

522 アカハラ　2015.4.16の1回だけの観察である。通常は8時半からのカウントであるが、この日は特別に6時から始めたため、早朝の公園にアカハラのさえずりが聞こえてきた。

525 ツグミ　11月～4月にほぼ毎回観察される。年内は樹上にいる事が多いが、年明けから地上で採餌する事が多くなる。地上の採餌場として陸上競技場や野球場の草地の他に野球場東側の斜面草地がよく利用される。

540 ジョウビタキ　11月～2月に園内のどこかでほぼ毎回観察される。羽数は3羽以下であり、それぞれ単独である。

558 キビタキ　2016.5.12に1回だけの観察である。この日はオスが雑木林内3ヶ所でさえずり、うち1ヶ所では姿を確認した。

569 スズメ　出現率90%で、ほぼ毎回出現する。1回当たりの出現羽数の最大は2014.10.16の55羽である。野球場東側の斜面草地にカワラヒワの集団の近くでスズメも40～50羽の集団で採餌する。繁殖行動は園内では観察されなかった。

573 キセキレイ　1年に1回、1～2羽が出現するだけで、特に目立つ存在ではない。

574 ハクセキレイ　出現率83%で、殆ど毎回出現する。陸上競技場や野球場の芝生地の他、駐車場やその他園内のどこにでも現れる。羽数は10羽以内である。

575 セグロセキレイ　1年に1回、1～2羽が出現するだけで、特に目立つ存在ではない。陸上競技場や野球場の芝生地に現れる。芝生地という本来ハクセキレイが現れるような環境にセグロセキレイも現れるのは珍しいと思われる。

580 ビンズイ　2015.3.18に3羽が1回だけ観察された。

586 アトリ　2回だけ記録された。2016～2017年の冬季はアトリの当たり年で八王子の各地にアトリが飛来した。この公園でも2017年2月と3月の2回観察できた。場所は上柚木地区の大栗川のほとりの芝生的な草地で、約80羽が採餌していた。翌月の3月にも同じ場所で8羽が観察された。

587 カワラヒワ　　出現率73%で、殆ど毎回出現する。集団でいる事が多い。野球場東側の斜面草地が主要餌場となっているが、陸上競技場、野球場の芝生にも来て集団採餌する。繁殖行動は園内では観察されなかった。

600 シメ　11月～3月にほぼ毎回観察される。羽数は3羽以下のことが多いが、野球場東側の斜面草地には30羽規模の集団が採餌に飛来する。

602 イカル2014.5.20（2羽）、2016.3.17（21羽）の2回だけ記録された。

610 ホオジロ　2014年は2回、2015年は5回観察されたが、2016年は1回も観察されなかった。7回の観察はいずれも冬季で繁殖期には観察されない。場所は野球場東側の斜面草地が多い。

617 カシラダカ　11月～3月にほぼ毎回観察される。数羽のこともあるが、30羽程度の集団で採餌していることが多い。場所は野球場東側の斜面草地が殆どであるが、一度だけ野球場の外野芝生に1羽がいた。

624 アオジ　11月～3月に数羽がほぼ毎回観察される。藪のような所にいて姿を見せないことが多いが、野球場東側の斜面草地でカワラヒワなどが採餌しているところに出てくる事がある。

901 コジュケイ　雑木林で声を聞くことがあるが、3回に1回以下の割合で、観察頻度は低い。

903 ドバト（カワラバト）　2014年は3回、2015年は4回観察されたが、2016年は1回も観察されなかった。公園を定宿としているドバトはいないと思われる。

909 ガビチョウ　出現率83%で、殆ど毎回出現する。10羽以下のことが多いが、10羽を超えることもある。繁殖行動は園内では観察されなかった。

不明種　種名が判断できないものは以下の2件であった。2014.9.18シジュウカラ、ヤマガラ、コゲラの混群の中にムシクイの仲間が1羽いたが、藪の中で姿がよく見えず、種の判別は出来なかった。2015.3.18山吹橋の手前にコムクドリのようであり、コイカルのようでもある鳥が3羽いた。一瞬であったので識別ができなかったので不明種とした。

(8)野鳥の生育にとって特に重要な場所

公園内で野鳥の生育にとって特に重要の場所が何か所か明らかになった。以下はその概要である。

【1】テニスコートと大栗川の間の雑木林とその周辺

シジュカラ、エナガ、コゲラ、メジロなどの混群がよく観察される。アオゲラ、アカゲラもこの雑木林で観察された。ツグミ、シロハラも採餌のため飛来する。面積が狭いが大栗川沿いの芝生状の草地でアトリの大群が採餌した。

【２】野球場北側の雑木林

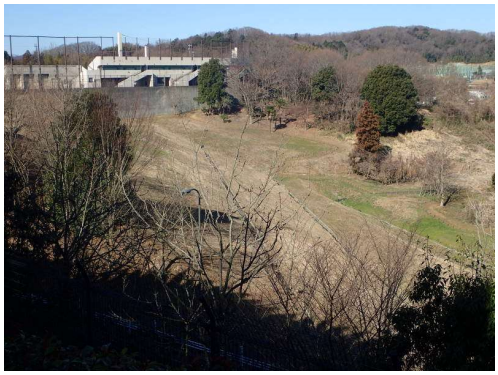
シジュカラ、エナガ、コゲラ、メジロなどの混群がよく観察される。アオゲラの観察頻度が高い雑木林である。

【３】野球場北側の雑木林の下で斜面草地の下（北側）にある繁み

繁みになっている環境を利用する野鳥が集まる場所である。モズが毎年営巣する。ウグイス、アオジがやって来る。

【４】野球場東側の斜面草地

野鳥の採餌場として最も重要な場所である。キジバト、モズ、ハシボソガラス、ムクドリ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、カワラヒワ、シメ、ホオジロ、カシラダカ、アオジなど多くの野鳥がやって来る。特にキジバト、スズメ、ムクドリ、カワラヒワ、シメ、カシラダカの集団採餌地として極めて重要な役割を果たしている。



【５】郷戸地区北側の雑木林と遊歩道

シジュカラ、エナガ、コゲラ、メジロなどの混群がよく観察される。遊歩道のようになっているところは幅が広く、ツグミ、シロハラ、ホオジロ、カシラダカ、ジョウビタキなども採餌のため飛来する。

４．特記事項

2014.4.25　ツミ、モズ、アオゲラ、セグロセキレイなど魅力的な野鳥に出会った。オナガアゲハ、コミスジ、ベニシジミもいた。ニリンソウの大群落の中にイチリンソウも咲いていた。フデリンドウの群落もあり。マルバアオダモ、ウワミズザクラ、イヌザクラも白い花を咲かせていた。

2014.5.20　アオサギ2羽が上空を西に向かって飛んでいった。テニスコート付近でイカルが綺麗な声で鳴いた。オナガがいたので、ツミの巣を探したが見当たらなかった。オナガはツミの巣の周辺に営巣する習性があるからである。ムクドリとスズメが桜の実を食べに来ていた。雑木林に竹が多く、この竹が枯れているように見える。このように竹が春に黄変するのは、竹の秋と言われている。筍に栄養分を費やして若返えさせるためらしい。ヤマボウシが多数植えられていて、清々しい花を咲かせていた。スイカズラは芳香を放っていた。オカタツナミソウがひっそりと花を咲かせていた。翅がぼろぼろになったヒオドシチョウがいた。

2014.6.17　モズ、シジュウカラ、ハシブトガラスの親子連れが観察された。モズは陸上競技場のネットフェンスに親2、巣立ち雛4羽がいた。オナガも巣立ち雛のようであり、カラスを追い払っていた。ムクドリの大きな集団がいた。巣立ち雛が混ざる集団で、ヤマモモやクワの実を食べに来ているものと思われる。ヤマモモの実が食べ頃になっていた。ムラサキシジミが綺麗な翅を見せてくれた。ハエドクソウが咲きだした。

2014.9.18　野球場の東側の草地斜面でノビタキを探したが、確認できなかった。その代わりスズメ約50羽を観察できた。その草地の北側でモズの鳴声を聞いた。ハシブトガラス約30羽の群れが北の方から飛んで来た。中央地区の陸上競技場北側の林にエナガ約20羽の群れがいて、シジュウカラ、ヤマガラ、コゲラと混群を作っていた。この群れの中にムシクイの仲間が1羽いたが、藪の中で姿がよく見えず、種の判別は出来なかった。クリ、トチノキ、ホオノキの実が稔っていた。郷戸地区で大きなキノコが見つかった。今年の秋はキノコが多いようだ。

2014.10.16　南へ渡って行くヒヨドリの集団が観察できた。シジュウカラ4羽が野球場の周りの林の地面に降りてどんぐりをつついていた。写真を撮ってみると、ドングリを咥えている個体がいた。どんぐりそのものを食べているのか、それともどんぐりの中の虫を食べているのか。ハシブトガラスの30羽以上の集団が先月に続いて現れた。カツラの葉が黄色になり、醤油焼煎餅の香りが漂っていた。ミツバアケビが美味しそうに稔り、ガマズミの実が赤くなっていた。ヤマボウシの赤くなった実を食べてみると甘くておいしかった。秋本番である。

2014.11.19　ヒヨドリが多く賑やか。カワラヒワも約 30 羽の集団が来ていた。野球場東側の土手にはツグミ 2 羽が地上に降りていた。放任された柿の木の実にメジロ 5 羽が来ていた。野球場北の林でカラ類の混群に出会った。エナガが 20 羽の他、シジュウカラ、メジロ、コゲラの集団であった。その時、野球場の上空にチョウゲンボウが現れた。ハクセキレイ 1 羽が民家のガラスに写る像を攻撃していた。陽だまりにはチョウ 4 種が未だ残っていた。フユシャクが飛び始めた。弱い木枯らしが吹き、秋から冬への季節の変わり目を感じた。

2014.12.17　野球場の東側の雑木林にカワラヒワ約20羽が止まっていて、その近くにアオゲラが飛んで来た。陸上競技場の照明塔にチョウゲンボウが飛んで来て一時とまり、大栗川の方へ飛んで行った。ソフトボール場近くに来て、シジュウカラ7羽、メジロ2羽、エナガ2羽、コゲラ1羽の小さな混群に出合った。この近くではヤマガラも観察できた。

2015.1.15　天気予報は雨であったが、降っていなかったのでカウントを始めた。しかし途中から雨が降ってきたので、少し早足で歩いてコースを一周した。野球場手前の草地の所にはカシラダカ約30羽の群れがいた。野球場の外野芝生にはカワラヒワ約80羽の群れが採餌していた。この群れにはスズメも数羽は混じっていた。秋には樹上に多いツグミが地上に降りてくるようになった。モズ、ジョウビタキは共にオスであった。後半は雨で急いだためか、エナガ、コゲラには出合えなかった。

2015.2.20　やまぶき橋付近のコノテガシワの林状のところにオナガの群れがいた。オナガはコノテガシワの葉の中に入っていて、時々見え隠れする状態であった。10羽としたが、もっと多くいたかもしれない。コノテガシワの葉の中で何をしているのであろうか。採餌だと思うが真

相不明である。ツグミもコノテガシワにいたが、こちらは木のテッペンに出ていた。アカゲラはテニスコートから大栗川へ下る雑木林の道で出合った。モズは野球場東側の何時もの所にいた。オスであった。シジュウカラのさえずりが聞こえてきた。エナガには2ヶ所で出合った。カシラダカが目立った。

2015.3.18　陸上競技場のグランドの芝地にカワラヒワ75羽が降りて採餌していた。グランドの管理者の話ではセイヨウシバの種を播いたので、その種を食べに来ているのではないかとのことであった。山吹橋の手前にコムクドリのようであり、コイカルのようでもある鳥が3羽いた。一瞬であったので識別ができなかったので不明種とした。その3羽が去った後にビンズイとシメが確認できた。テニスコートから大栗川に下りる「自然林の小道」の雑木林で先月はアカゲラがいたが、今月はアオゲラであった。野球場東側の雑木林に少し大きめの古巣があった。カラスの巣か、あるいはツミの巣か。その下の繁み付近にはモズのオスとメスがいた。メスは体を全身で震わせていた。求愛ディスプレイかも知れない。第1駐車場付近の湧水池にヒキガエルとヤマアカガエルの卵塊があった。テングチョウが目立ち、ヒオドシチョウも1匹観察できた。

2015.4.16　通常は8時半からのカウントであるが、今月は特別に6時から始めた。早朝の公園にアカハラのさえずりが聞こえてきた。カワラヒワが陸上競技場のグランドに集団で来ていた。シジュウカラが野球場の外壁の排水穴に入って、出て来なかった。穴の中に巣があって抱卵しているのかも知れない。コナラの雄花が目立った。ヤマザクラの花にメジロが来て吸蜜していた。ウラシマソウが長い糸の花を着けていた。

2015.5.21　オオタカが2羽のカラスに追いかけられていた。モズ2羽がいたが、うち1羽は幼鳥のようであった。キジはオスで野球場東側の雑木林にいた。コゲラ2羽が野球場北側の雑木林にいたが、営巣の様相は認められなかった。郷戸地区の公園裏側のクローバーが生えている所にヤセウツボが群生していた。ヤマボウシ、スイカズラ、クスノキ等の花が目立った。

2015.6.18　陸上競技場の芝生とトラックの境目の所にコチドリが来ていた。モズが「未だ残っているはずである」と探すと中央地区と上柚木地区の境目付近にオスメスがいて、鳴きあっていた。シジュウカラ、コゲラは巣立ち雛連れの親子が観察できた。野草のハエドクソウが咲き出した。ヤマモモ、ヒメコウゾの実が熟してきた。試食してみると両種の味の違いが明瞭であった。ナツツバキが数本咲いていた。アカシジミが1匹飛んでいた。カノコガが野球場東側の草地にいた。

2015.9.10　上柚木公園の野鳥定期カウントを再開した。ヒメアマツバメが上空に1羽、ヤマガラが街路樹に1羽現れた。キアゲハがイタドリの葉にじっと止まっていた。ヤマホトトギスが咲いていた。ヤマボウシの実が熟し食べてみたら美味しかった。

2015.10.15　モズの高鳴きが広範囲にあり、5羽が観察された。うちオス2羽、メス2羽、オスメス不明1羽であった。エナガを主体とする混群に出会った。シジュウカラ、ヤマガラ、メジロ、コゲラを含む5種混合であった。別の場所のシジュウカラはアカシデの実を食べていた。ヤクシソウが咲き出した。蝶は9種、ツマグロヒョウモンはメスが2匹いた。ヌルデの木に袋状の虫こぶが付いていた。これはヌルデミミフシと呼ばれるアブラムシの一種が寄生してできる虫こぶである。

2015.11.12　野球場の外野芝生にカシラダカ1羽がいた。カシラダカは今季初認である。モズが3か所で高鳴きをしていた。高圧電線にチョウゲンボウが止まっていた。長く止まっていたが、その後飛び出して再び高圧線鉄塔に止まった。野球場東側の斜面の草地ではカワラヒワ、スズメの集団がいた。ホオジロもいた。よく観察するとシメもいて、オオブタクサの実を食べていた。

2015.12.10　ヒヨドリが多く、どこにもいて賑やかであった。野球場に隣接する雑木林にアオゲラが1羽、他にエナガ10羽、ガビチョウ4羽、ヒヨドリ多数がいた。野球場の東側の斜面のススキ等の草が全て刈られていた。その刈った後にキジバト15羽の集団が降りて採餌していた。同じ場所にハシボソガラス4羽もいて、近づいたネコを追い払っていた。オオタカが突然現れて飛んでいるキジバトかドバトを狙って急降下した。少し遠かったが翼の形とハトとの大きさ比較でオオタカとした。

2016.1.14　カワラヒワの集団が野球場東側の木に止まっていた。キジバトが目立った。特に野鳥場東側の草が刈取られた斜面に多かった。山吹橋の下にはシロハラ、ツグミ、ジョウビタキ、カシラダカが集中していた。オオタカ、チョウゲンボウが今月も現れた。アセビの花が早くも咲いていた。

2016.2.18　野球場隣りの雑木林の混群には、シメ、カワラヒワ、シジュウカラ、メジロ、エナガ、ヤマガラと6種が混じっていた。野球場東側の斜面の刈られた草地にはカワラヒワの大きな群、カシラダカ、アオジ、シメ、モズ、ハシボソガラスが地上に降りて採餌していた。カワラヒワは野球場の芝生グランドにもいた。シメは3羽いて木のテッペンで日を浴びているものもいた。アオゲラは声で判断したので、アカゲラの可能性もある。野球場の大栗川側の雑木林のシンジュがたわわに実を付けていて、これがよく目立った。

2016.3.17　トチの冬芽が膨らんできて、朝日に輝いていた。メジロがヤブツバキの花の蜜を吸っていた。ヒヨドリがキブシの花を食べていた。野球場付近でエナガが巣材運びをしていた。エナガの繁殖行動と見られる。ムクドリ2羽対2羽が地面で嘴を大きく開けて、にらみ合いをしていた。カワラヒワ、カシラダカの集団が見られた。日差しが暖かくなり、花とチョウが目立ってきた。

2016.4.16　陸上競技場の芝生にハクセキレイでなく、セグロセキレイが来ていた。ウグイスがよくさえずっていた。野球場の東隣りの小さな雑木林でハシボソガラスが巣作りをしていた。渡り途中のヒヨドリが集団で北の方へ飛んでいった。コジュケイがテニスコート周辺の雑木林で、直ぐ近くで鳴き出した。雑木林の道端のタマノカンアオイが花を見せてくれた。

2016.5.12　キジバトがフェンスの上でリラックスしているみたいであった。アオゲラが野球場近くの雑木林の枯れたクリの木に営巣。掘りたての新しい巣があり、その近くのオスメス2羽がいた。キビタキのオスが雑木林内3ヶ所でさえずり、うち1ヶ所では姿確認。キセキレイが明るい雑木林の地面にムクドリとともにいた。シジュウカラの巣立ち直前と見られる雛の死体2羽が園内道路にあった。オガタマノキが花を開いていた。

2016.6.15　ウグイスの声は1回だけであったが、ホトトギスも鳴いていた。キビタキは確認できなかった。チョウゲンボウが野球場の上を北からカラスに追いかけられながら飛んで行った。モズが野球場東側に未だいた。この場所は、いつものモズのいる所で、オスメスがいたが声が無かった。ヤマモモの実を試食したら美味しかった。ネムノキが咲き出した。郷戸地区の北側にヒミズの死体があった。

2016.9.15　メジロが良く目立ったが、その他の鳥は低調であった。ヤマボウシの実が熟してきた。今年のヤマボウシの実は雨が多いせいか、味は今一であった。ヒガンバナが一ヶ所であったが満開であった。雑木林の中でヤマホトトギスの花に出合った。希少種のコイケマが花を付けていた。

2016.10.13　街路樹のヤマボウシの花が季節はずれで咲いていた。カラ類の混群を複数回確認した。メジロが多かった。トチの木の下の広場あたりにたくさんのスズメがいた。愛宕神社の手前にジュウガツザクラが咲いていた。神社を過ぎた大栗川の周辺にたくさんのムクドリがいた。オナガは声を聞いただけなので1羽とした。最後の高圧線鉄塔付近のホウの実をハシボソガラスが食べていた。

2016.11.17　野球場の外野の芝生にツグミ2羽がいた。ツグミは通常であればこのような環境に姿を見せるのは年明けから春先であるので、今の時期の芝生の上のツグミは珍しい。野球場東側の雑木林に鳥が集まっていて、ガビチョウ、ヒヨドリ、キジバト、メジロの中にアオゲラも姿を見せてくれた。　モズは3ヶ所で3羽、オス1、メス、オスメス不明1であった。雑木林が紅葉していた、その中で動き回るシジュウカラの姿は見え隠れであった。コゲラが枯れた枝で採餌していた。

2016.12.15　カワラヒワの大集団が野球場東側の斜面に降りて採餌していた。数えると100羽以上はいた。この集団にはシメも10羽、ツグミ4羽も混じっていた。オオタカが野球場の上空を旋回しながら上昇し、西南の方向へ飛んでいった。カラスウリの赤い実がアクセントのように輝いていた。寒いためか、キジバト、アオゲラが体を膨らませていた。

2017.1.18　午前中は所用があったので、午後のカウントになった。冬はメジロやヒヨドリが樹液を吸いに集まることがある。ここでもメジロが来て樹液をなめているような行動が見られた。トチノキの冬芽が粘膜に覆われていて、西日に輝いていた。ここにもメジロがやって来そうな感じである。カワラヒワの大きな群れがあり、シメも約15羽が群れていた。ガビチョウは何故か観察されなかった。

2017.2.16　スタートして直ぐ、野球場手前でカワラヒワの大きな集団に出合った。約100羽の集団であった。テニスコートを過ぎて、雑木林にはコゲラ、エナガ、メジロ、シジュウカラがいたが、シジュウカラ以外は数は少なかった。その雑木林の階段を降りると、変わった椿が花を付けていた。葉は通常の椿より細長く、花が下向きで小さいという特徴があった。白い花と赤い花の2本が植えてあった。どうやらワビスケという椿らしい。大栗川のほとりに出るとアトリの集団がいた。100羽には少し足りなそうなので、80羽とした。芝生的な草地に降りて採餌していた。野球場の東側の草地の斜面には今月もシメの群れがいた。モズは2羽一緒になっていた。繁殖行動が始まったものと思われる。「春近し」の感じがしてきた。

2017.3.16　アトリが今月も大栗川のほとりで先月と同じ場所にいたが、羽数は先月より少なかった。カワラヒワ、シメ、カシラダカの群れが野球場東側の草地斜面で採餌していた。カルガモ3羽は上空通過したものである。コブシ、キブシ、モミジイチゴなどの花が咲き出した。

５．考察

種数、季節区分からみた野鳥の構成種、複合運動場という環境の中の緑の役割という観点から考察する。

（１）種数

3年間の調査で確認された47種が多いか、少ないかを考察する。八王子・日野カワセミ会では、都立小宮公園、市立片倉城跡公園、都立長沼公園でも毎月1回の野鳥定期カウントを行っている。比較表は以下の通りである。

47種は他の3公園と比べほぼ半数である。上柚木公園で確認された野鳥の種類数がこのように少ない理由として以下の二つの要因が考えられる。

①調査期間が3年間と短いこと。

②面積は21haあるが、陸上競技場をはじめとしたスポーツ施設が大半を占め、雑木林等の林の面積が少ないこと。片倉城跡公園も7haと面積が少ないがここには湯殿川が含まれているため、水辺の鳥がカウントされることによる。

確認された野鳥の種類数（外来鳥を含む）の比較

	上柚木公園	小宮公園	片倉城跡公園	長沼公園
面積(ha)	21	25	7	31
特徴	複合運動場	雑木林	雑木林、川	雑木林
調査時期	2014.4-2017.3	1987-2015	1987-2015	1992-2015
調査期間(年)	3	29	29	24
確認種数(種)	47	99	84	95

（２）季節区分からみた野鳥の構成種

季節区分からみた他の公園との比較は下表の通りである。冬鳥、夏鳥、旅鳥という渡り鳥が少ない事が顕著である。旅鳥にいたっては1種も渡来してない。渡り鳥が少ない原因は、明確ではないが、運動公園が主体という性格上他の公園と比べ環境の多様性が低いこと、緑地の面積が少なく、かつ樹木はあっても自然林の樹木と比べれば多様性が低い植木の割合が多いこと、水辺の環境が殆どないことによるものと推定される。

季節区分（外来鳥を除く）の比較

季節区分	上柚木公園	小宮公園	片倉城跡公園	長沼公園
留鳥	30	45	44	45
冬鳥	9	29	20	21
夏鳥	5	13	10	14
旅鳥	0	4	4	10
計	44	91	78	90

(3)複合運動場という環境の中の緑の役割

運動公園やスポーツ施設のあるエリアは自然とは程遠い人工的な施設があるだけで、街路樹等の線的な緑や植木が植えてある所はあるものの、面的な緑が殆どないのが一般的である。それに比べ、上柚木公園には雑木林や斜面草地があるため、必ずしも多くはないが47種の野鳥が生息できる環境を作りだしている。この公園が緑に囲まれていること、散策道がよく整備されていることにより、公園内を散策する人が多く見受けられる。スポーツ施設を利用する人だけでなく、気軽に公園内を散策する人が多く訪れることが公園の本来の役割であるとすれば、緑が多いことが大きな役割を果たしているものといえる。

６．今後に対する提言等

(1)斜面草地の役割の認識と適切な管理

野球場東側の斜面草地は野鳥の採餌場として最も重要な場所であることが本調査で明らかになった。調査結果の項で記載したことを繰り返すが、キジバト、モズ、ハシボソガラス、ムクドリ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、カワラヒワ、シメ、ホオジロ、カシラダカ、アオジなど多くの野鳥がやって来る。特にキジバト、スズメ、ムクドリ、カワラヒワ、シメ、カシラダカの集団採餌地として極めて重要な役割を果たしている。この場所がこのように重要なエリアであることを関係者の方々は認識して欲しい。この草地の草が毎年刈り取られるという管理がなされていることも野鳥が地面に降りられるので餌場提供に大きな役割を果たしている。今後もこの場所が草地として維持され、草刈りの管理が継続されることを第一に提言する。

（２）水辺環境の整備

水辺環境を整備すれば、野鳥がもっと多く集まって来ることは間違いない。園内には野鳥を集めるための整備可能な場所が2か所ある。

一つは上記（１）の斜面草地の一番下の部分である。地下水が染み出し、排水構となっている部分である。ここを単なる排水構としてではなく、湿地として整備することを提言する。池にするだけの水量がないので、湿地として位置づけて一定の水が溜まるような措置をして水生植物が生育できる環境を作れば水辺の鳥が集まって来ると思われる。

もう一つは郷戸地区の北東端にある湧水池の周辺の整備である。今でも湧水池は整備されていて、春にはヒキガエル、ヤマアカガエルが産卵に来ている。1日に1回以上は水浴をする野鳥から見ればこの湧水池は水浴場として恰好の場所に見えるはずである。しかし、現在はこの湧水池が道路に接しているため、野鳥が安心して近づけない状態になっている。湧水池から30メートルくらいは人が近づけないような周辺整備を行うことを提言する。

（３）郷戸地区の北側の遊歩道の確保

郷戸地区北側の遊歩道のようになっている所ではシジュカラ、エナガ、コゲラ、メジロなどの混群がよく観察される。ツグミ、シロハラ、ホオジロ、カシラダカ、ジョウビタキなども採餌のため飛来する。この場所が現在は遊歩道なのか、隣接民地との緩衝帯なのかはっきりしない。ここは幅が比較的広く確保されているので、今後も舗装などせずに野鳥も野草も昆虫も人（散策）も共存できるような草を生やした遊歩道として位置づけ、管理することを提言する

（４）雑木林の存在と管理

面積は必ずしも広くないが、上柚木地区と中央地区の北側には雑木林が残り、かつ下草刈りなどの管理が行われている。この雑木林の存在が多摩丘陵の一角を占めている公園であるとことを示すシンボルになっている。今後も雑木林を縮小するようなことの無いよう提言する。雑木林は下草刈りや萌芽更新による管理が基本となるが、一律に行うのではなく、ウグイス、アオジ、コジュケイ等の生息場所、モズの営巣場所を確保するために一部藪状になった部分も常に残し、環境の多様性を図るような管理がなされることも併せて提言する。

（５）野鳥が好む木の植栽

運動公園という性格上植木が多く植栽されていることは当然である。今後は野鳥が好む実を付ける木の植栽を進めることを提言する。現時点では旅鳥の観察はできてないが、野鳥が好む木を植えることにより、コムクドリ、ヒレンジャク、エゾ

ビタキなどのヒタキ類を呼ぶことが期待できる。
以下に樹木とその実に集まる野鳥の事例を示す。

アカメガシワ（トウダイグサ科）
落葉高木、雌木を選ぶ、9～10月に結実
オナガ、キジバト、ムクドリ、ジョウビタキ、コムクドリ、キビタキなど

イイギリ（イイギリ科）
落葉高木、雌木を選ぶ、10～11月に結実
オナガ、キジバト、ヒヨドリ、ムクドリ、メジロ、ツグミ、コジュケイなど

イチイ（イチイ科）
常緑針葉高木、雌木を選ぶ、9～10月に結実
ヒヨドリ、ツグミ、カワラヒワ、シロハラ、アカハラ、シメ、アオゲラ、ヤマガラ、 カケスなど

ウメモドキ（モチノキ科）
落葉低木、9～10月に結実
ヒヨドリ、ツグミ、メジロなど

エゴノキ（エゴノキ科）
落葉小高木、10月に結実
ムクドリ、オナガ、ツグミ、アカハラ、ヤマガラ、ヒヨドリ、キジバト、ヤマガラなど

エノキ（ニレ科）
落葉高木、雌雄同株、10月に結実
オナガ、ヒヨドリ、ムクドリ、シロハラ、ツグミ、メジロ、アカハラ、コムクドリ、シメ、イカル、キレンジヤク、ヒレンジャク、コジュケイなど

カキノキ（カキノキ科）
落葉高木、雌雄同株、10～11月に結実
オナガ、ヒヨドリ、ムクドリ、メジロ、ツグミ、ウグイス、シロハラ、アカハラ、キレンジャク、ヒレンジャク、エナガなど

ガマズミ（スイカズラ科）
落葉低木、雌雄同株、10～11月に結実
オナガ、ヒヨドリ、ツグミ、アオゲラ、コジュケイなど

カラスザンショウ（ミカン科）
落葉高木、雌雄異株、11～12月に結実
イカル、ムクドリ、キジバト、ジョウビタキ、ツグミ類、ウグイス類、ヒタキ類など

クマノミズキ（ミズキ科）
落葉高木、雌雄同株、10月に結実
キジバト、ヒヨドリ、ムクドリ、ツグミ、コゲラ、コムクドリ、アトリ、キビタキ、ノビタキ、エゾビタキ、コサメビタキなど

クロガネモチ（モチノキ科）
常緑高木、雌木を選ぶ、11～12月に結実
ヒヨドリ、シロハラ、ツグミ、キレンジヤク、ヒレンジヤク、アオバト、キジなど

サンショウ（ミカン科） 落葉低木、雌木を選ぶ、10月に結実
オナガ、キジバト、ヒヨドリ、ジョウビタキ、コムクドリ、ルリビタキ、キジなど

ツルウメモドキ（ニシキギ科）
つる性落葉低木、雌木を選ぶ、10月に結実
オナガ、キジバト、ヒヨドリ、メジロ、ツグミ、ジョウビタキ、キレンジャク、ヒレンジャク、コジユケイ、キジなど

ニワトコ（スイカズラ科）
落葉低木、雌雄同株、9月に結実
オナガ、ヒヨドリ、カワラヒワ、ホオジロ、カシラダカ、キジなど

ネズミモチ（モクセイ科）
常緑低木、雌雄同株、10～ 11月に結実
オナガ、キジバト、ヒヨドリ、ツグミ、アカハラ、キレンジャク、ヒレンジャクなど

マユミ（ニシキギ科）
落葉低木、10～ 11月に結実
ヒヨドリ、ツグミ、キビタキ、ジョウビタキ、キツツキ類、ツグミ類、シジュウカラ類など

ミズキ（ミズキ科）
落葉高木、雌雄同株、10～ 11月に結実
キジバト、ヒヨドリ、ムクドリ、ツグミ、コゲラ、コムクドリ、アトリ、コジュケイ、キジ、キビタキ、ノビタキ、エゾビタキ、コサメビタキなど

ムクノキ（ニレ科）
落葉高木、雌雄同株、10月に結実
オナガ、キジバト、ヒヨドリ、ムクドリ、メジロ、ツグミ、シロハラ、アカハラ、シメ、イカル、キレンジヤク、ヒレンジャク、コジュケイなど

ムラサキシキブ（クマツヅラ科）
　落葉低木、雌雄同株、10～ 11月に結実
　オナガ、キジバト、メジロ、ツグミ、カワラヒワ、シロハラ、ベニマシコ、アオゲラ、コジュケイ、キジなど
モッコク（ツバキ科）
　常緑小高木、雌雄同株、10～ 11月に結実
　ビヨドリ、シジュウカラ、ジョウビタキ、キビタキなど

ヤツデ（ウコギ科）
　常緑低木、雌雄同株、3～ 5月に結実
　ヒヨドリ、ツグミ、キレンジャク、ヒレンジャクなど

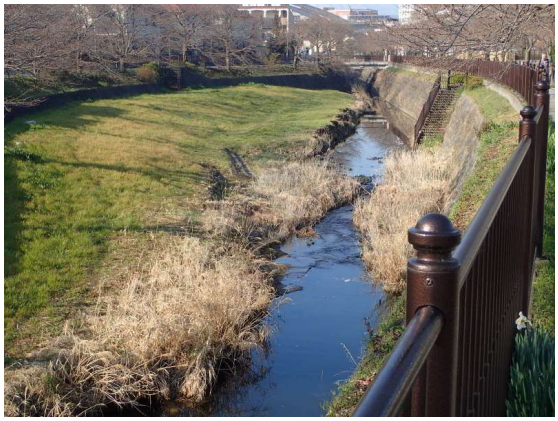
ヤマザクラ（バラ科）
　落葉高木、雌雄同株、6～ 7月に結実
　オナガ、キジバト、ヒヨドリ、ムクドリ、アカハラ、トラツグミ、アオバト、イカル、コムクドリ、カケス、クロツグミ、キジなど
　（花にメジロ､ヒヨドリ､スズメが吸蜜に来る）

（６）巣箱の設置

シジュウカラ、ヤマガラは樹洞に営巣する。スズメは建物の隙間に営巣する。しかし、公園内には樹洞ができる大木がなく、隙間のある建物がない。この課題を解決するのが巣箱の設置である。ただし、巣箱は設置したままにしておくことは禁物で毎年必ず巣箱の中の清掃が必要である。そこで、巣箱の設置と毎年1回の巣箱の清掃の参加を市民に呼び掛けて実施することを提言する。巣箱を設置するとスズメ蜂が利用することもあるので、設置する場所は人が容易に近づけない場所を選ぶ等の安全対策が必要である。

（７）大栗川との一体化を図る

上柚木地区の北側は大栗川に接している。しかし、コンクリート3面張に改修されてしまった大栗川との結びつきが全くなくなってしまっている。上柚木地区の北側を流れている大栗川のこの部分を広げて、親水地として整備をすることを提言する。このモデルは以下の写真の通り湯殿川の支流の兵衛川の北只沼橋と上沼橋の間の右岸にある。これにより水辺環境が飛躍的に進むことは間違いなく、大栗川の自然環境の復元にも大きく寄与すると思われる。



（８）いつまでも成長する公園を目指す

現在確認された野鳥は47種であるが、上記（１）から（７）までの提言を実行すれば、この公園の生物多様性は高まり観察される野鳥の種類も増えていくことは間違いない。ここに提言した内容は直ちに実行できるものではないが、今後長い年月をかけて少しずつ実施することにより、いつまでも生物多様性の実現に向けて成長する公園になることを期待する。スポーツ施設を利用する人だけでなく、気軽に公園内を散策する人が多く訪れる公園に成長をし続けて欲しいものである。

（９）身近な野鳥の観察の継続

いつまでも成長し続ける公園を見守るために野鳥の観察を継続することが望ましい。2017年3月までは上柚木公園の施設管理者からの依頼で実施していた野鳥調査を今後は八王子・日野カワセミ会の自主的な活動として可能な範囲で調査を継続したい。47種が50種、60種、70種と増えていくことを追跡したいものである。

７．調査参加者の感想、提言等

調査に参加した会員の感想、提言等は以下の通りである（五十音順）。
（１）粕谷和夫
3 年間の結果を集計して観察した種数が 47 種と出た。思ったより少なかったという印象である。しかし、スポーツ施設がメインの公園としては多い方ではないかと思われる。しかも本公園の管理者が多摩丘陵の雑木林を残し、自然を生かした公園にしたいという姿勢に感銘した。
調査を通じ、公園内には野鳥の生息に適した場所が何か所もあることが明らかになった。このような場所を基本にさらなる対策をすれば生物多様性は高まり観察される野鳥の種類も増えていく可

能性が高いことも明らかになった。そのためにいくつかの提言をまとめた。提言した内容が、今後長い年月をかけて少しずつ実施されることを期待する。

（２）門口一雄

雑木林、笹藪、草地、広場と比較的変化に富んだ環境であり、思ったより多くの野鳥が生息していた。特にアトリやシメの群れを再三見られたことに感激した。管理事務所の職員の対応がよく、気持ちよく施設を利用できた。

要望事項：

・北側道路予定地？は、草地とし、遊歩道とする。
・第１駐車場と上記道路予定地まで連絡歩道を設ける。
・公園全体の緑被率、植生は現状を維持すること。
・野球場東側の斜面の草地は残してほしい。

（３）工藤正子

私の身近な散歩道である上柚木公園。四季を通して、公園内の自然観察を楽しんでいます。その緑地で３年間にわたる野鳥調査に参加できたことは、とても幸運でした。特に２年目の 2015 年 4 月の早朝６時にアカハラの軽快な囀りを初めて聞いた時には、感激でいつもの公園が特別な場所に感じられました。

野球場の地面や草地で採餌するカワラヒワなどの群れを観ると野鳥たちの生活の場に境はないことを実感しました。アトリ、カワラヒワ、シメ、ツグミなど大群をなして、或いは単独で、周辺の雑木林の梢で憩う様子を観ていると、いつまでもこの自然が続くように…..と思いました。そして、野鳥の調査を通して多くの事を教えて頂いた皆様に感謝いたします。

（４）対中義雄

上柚木公園を初めて訪れたのは 2 年位前です。公認競技の認定トラック、高校野球の予選会にも使用されるグランド等々素晴らしい施設に圧倒されました。その様な環境の中、小鳥たちが集う木々や草地、多摩ニュータウンの地形と自然を活かした公園でした。四季折々、小鳥たちが羽根を休め繁殖をし、春秋には渡り途中小休止のオアシスです。

月一回の調査探鳥会でしたが楽しませて頂きました。何回か開催されている一般の方を対象の探鳥会、年に数回継続される事と、巣箱の設置を提案させて頂きます。

最後にお茶のサービス、心配りにスタッフの皆様に感謝申し上げます。有難うございました。

（５）浜野建男

上柚木公園は自宅からも近く、整備された安全な環境で探鳥ができることで、当初から探鳥に参加しました。広い公園ですが、陸上競技場や野球場など運動施設が中心で自然環境はそれほど多くなく、決して探鳥に適しているとは言えません。ですが３年間を継続して探鳥してみれば、植物も含めた四季折々の変化、時には珍しい野鳥の出現など、徐々に増加した参加者とともに自然とのふれあいを楽しめました。

今後も野鳥が生息できる環境が保全され、増えていくことを期待しています。

（６）平賀甫

私が八王子・日野カワセミ会に入会したのは昨年の５月初めなのですが、入会できたきっかけは会社勤めを終わらせて昨年野鳥観察に興味を持ち始めて双眼鏡を買い一人でバードウオッチングをし始めて間もない 2 月 27 日（土）に、上柚木公園で野鳥観察会があるのをホームページで知り参加したらカワセミ会の粕谷会長はじめ会員の方々の案内で楽しませてもらい、なお一層興味を持ったからです。

昨年 12 月 15 日の上柚木公園定期カウント時に会長より「ここの定期カウントは来年の３月までだから」と聞かされて大変びっくりしたと同時に（私を含め今まで参加していた会員全員が）ショックを受けてしまいましたが陸上競技場等々のスポーツ施設や芝生の丘なども全てが良く管理されているこの上柚木公園で定期カウントが出来た上に新入りの私が野鳥の勉強を出来たことに対して非常に感謝しております。

上柚木公園定期カウントの思い出としては沢山ありますが、直近では冬鳥のシメ・アトリやカワラヒワの大きな群れによく出会えたこと等です。

上柚木公園の定期カウントは 2017 年３月 16 日（木）で残念ながら終了してしまいますが、今後も野鳥観察会は続けられるというお話ですし、鳥の巣箱設置にもカワセミ会が関わるようですのでカワセミ会と上柚木公園との関係が限りなく続くことを願って止みません。

私の家は幸いに八王子市の鑓水で歩いても 20 分少々車ならば 3・4 分で上柚木公園まで来られてしまうので、今でも時折犬の散歩や個人的野鳥観察をさせてもらっておりますが、今後も身体の続く限り利用させて頂きたいと思っております。

（７）広岡房江

上柚木公園がオープンした頃から、近所の子供たちを連れて遊ばせていました。子どもの広場以

外には行ってなく、他の所は見たこともありませんでしたが、この公園はたくさんの木々も多くあり、鳥たちの声がしているくらいで、自宅に近い環境のためなのか、これもあたりまえぐらいに見過ごしていました。

仕事も退職し、家にいることが多くなると、自然が気になり、鳥の名前や花のことを知りたいと思い始めた頃、上柚木公園で鳥の調査があるとのことを知り、参加してきました。　今まで思っていた以上の鳥がいる事や古い日本の植物が残っていることに嬉しく思い、毎月参加させて頂きました。

この大きな公園の事を知っている八王子の人たちは、まだまだ少ないようで、時々、場所を聞かれる事もあります。周囲には大学が多くあり、それぞれの交流はありますが、全体のみなさんの一緒の交流がないので、全員で行える行事をこのグラウンドでする事もいいのではないかと思います。学生さんたちが卒業しても、上柚木公園の自然や鳥の声などを思い出してもらえたら、とてもうれしく思います。

（８）武藤邦子

毎月一回の探鳥会を楽しみに３年間通いました。集合場所から富士山がよく見え、気持ちよく出発です。正面玄関を出るとメジロ、シジュウカラが出迎えてくれます。橋の下にはシロハラが、冬はいつもいるようですね。先に進むとポーンポーンと軽快な音、若い人達がテニスを楽しんでいる様子。その先の雑木林からコツコツ、コンコンと木を突くドラミングの音が聞こえます。アカゲラです！　時には、シメ、アトリ、カシラダカの群れに遭遇。上空には、トビ、オオタカ、チョウゲンボウにも時々出合えます。アオゲラ、キジ、アオジ､ウグイス等にも出合えた時はワクワクします。

林を抜けるとバードゴルフをしている皆さんの生き生きとした姿が印象的です。又、園児達のかわいい声も聞こえます。その光景に思わず、心が和み笑顔がこぼれます。春の芽吹き、夏は緑で癒され、秋には紅葉、冬は鳥達がたくさん見られ、季節の移り変わりを肌で感じられる探鳥会でした。実りある時間を過ごせた事に感謝します。

（９）渡辺正樹

３年間の集計表を見ると､私は 24 回もカウントに参加していることになります。改めて歳月の早さを感じました。感想をということで考えたのは次の３つでした。

１．鳥にとって水場が公園にあればよいのでは。
２.鳥の食べる実のなる木や草がもう少しあれば。
３．北斜面の草地を生かす工夫があれば。

しかし、１は管理の問題（子供に危険のないように等々）をどうするかという事があります。２は工夫する余地があるのではないかと思います。３は体育館建設の計画があるとのこと。公園全体の在り方の問題になります。いずれにしても､「運動公園と野鳥」の共存について考える大きなテーマだと思います。

８．野鳥以外の生きものの観察結果

野鳥のカウント時に野鳥以外の生きものとしてチョウ、トンボ、植物等を観察し、記録した。これは粕谷一人が片手間に行ったもので、見落としが多いことは承知のうえで行ったものである。植物は花が咲いているものを記録し、蕾や実が特に目立ったものも記録した。

この結果、チョウは38種と多くの種を観察したが、トンボは3種だけであった。トンボが少ないのは、この公園内には水辺環境が殆どないことによるものである。チョウの羽数では、ヒメウラナミジャノメ（最大30）、ヤマトシジミ（最大30）が多かった。

ゼフィルスと呼ばれるミドリシジミの仲間のアカシジミが観察されたことが注目される。アカシジミはコナラやクヌギの多い雑木林で見られるチョウで、この公園の雑木林が健全であることの証である。

セミの仲間は八王子で代表的な4種の全てが観察された。郷戸地区の北東端にある遊水池にはヒキガエル、ヤマアカガエルが産卵に来る。

郷戸地区北側の遊歩道のようになっている所でヒミズを観察した（写真）。ヒミズは体長9～11cmのモグラ科の小さな哺乳類である。尾が短いところはモグラに似るが、モグラより体は小さく、四肢も小さい。平地から標高 2000mぐらいまでの森林，草原，畑地やそれらの縁などに生息する。

樹木は52種、草本は132種が観察された。樹木には植木が含まれ、草本には外来種が多く含まれている。以下は観察データである。

観察されたチョウ、ガ、トンボ等

年	2014							2015										2016										2017		
月	4	5	6	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	9	10	11	12	1	2	3
日	25	20	17	18	16	19	17	15	20	18	16	21	18	10	15	12	10	14	18	17	15	12	15	15	13	17	15	18	16	16
アカシジミ												1	1																	
アカタテハ				1																										
アカボシゴマダラ							1																	1						
イチモンジセセリ				3																										
ウラギンシジミ					7										3											1				
ウラナミシジミ					3	2																								
オオチャバネセセリ		1																												
オナガアゲハ	2	2		1																										
カラスアゲハ		1																												
キアゲハ			1											1																
キタテハ					2	1														2	1									2
キチョウ	2			1	10									2	2					1		1								
クロアゲハ				1																										
クロヒカゲ															1															
コジャノメ			2									1																		
コミスジ	1			3																		1								
サトキマダラヒカゲ				3								4																		
スジグロシロチョウ			10										5								1		1	5						
ダイミョウセセリ														1																
チャバネセセリ				1																										
ツバメシジミ			2																											
ツマグロヒョウモン															2															
テングチョウ										6		2								6										
ナミアゲハ			4																											
ヒオドシチョウ		1								1																				
ヒカゲチョウ				1											1															
ヒメウラナミジャノメ		20		15										25								10		30						
ヒメキマダラセセリ												1																		
ベニシジミ	7		8	1	2	1						1			1						4	1								
ミスジチョウ		1																												
ミドリヒョウモン				1																										
ムラサキシジミ			1												1											1				
モンキアゲハ																						1								
モンキチョウ	2	3	5	3	13							1										1		1		1				
モンシロチョウ	3		5									3	10		2						2									
ヤマトシジミ		2	1	25	25	8						1	3	10	5									30		1				
ルリシジミ			1								1																			
ルリタテハ																1														
オオスカシバ					1																									
カノコガ			1										4																	
フユシャク						1																								
ホタルガ			3																											
アキアカネ					15																									
ハグロトンボ			3																											
ミヤマアカネ					5																									
ツクツクボウシ				声																										
アブラゼミ														声										声						
ツクツクボウシ														声										声						
ミンミンゼミ				声										声										声						
コガタスズメバチ				巣																										
ナナホシテントウ																				1										
ホソヒラタアブ																				*										
ジョロウグモ																								*						
エザキモンツキツノカメムシ																							*							
ヒミズ																							死体							

観察された樹木

年	2014							2015										2016										2017		
月	4	5	6	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	9	10	11	12	1	2	3
日	25	20	17	18	16	19	17	15	20	18	16	21	18	10	15	12	10	14	18	17	15	12	15	15	13	17	15	18	16	16
アカシデ																				花										
アカメガシワ													花																	
アセビ																		花												花
イヌザクラ	花																													
ウグイスカグラ		実								花		実																		花
ウワミズザクラ	花																													
エゴノキ																						花								
エノキ											花																			
オガタマノキ																						花								
カツラ					香り	実																								
ガマズミ		蕾			実	実																花				実				
キブシ										花			実							花										花
クサギ					実																									
クスノキ		花										花										花								
クヌギ					落果						花										花			実						
クマノミズキ			花										花										花							
クリ				実																										
クワ												実																		
ケヤキ											花																			
コクサギ											花																			
コゴメウツギ		花																												
コナラ					落果						花										花			実						
コブシ														実	実															花
サルトリイバラ	花										花																			
サンシュユ																				花										
シラカシ					落果																									
スイカズラ		花										花																		
タラヨウ																					蕾									
チャノキ					花																									
トチノキ		花	実	実	落果								実	実								花								
ナツツバキ			花										花																	
ニガイチゴ											花																			
ニセアカシア																						花								
ネムノキ													花										花							
ノイバラ		花				実						花										花								
ヒサカキ						実																								花
ヒメコウゾ													実																	
ピラカンサ					実																	花				実				
ホウノキ		花		実																		花								
マユミ		花																				花								
マルバアオダモ	花										花										花									
ミズキ																						花								
ミツバアケビ					実																									
ムラサキシキブ			花										花										花							
モミジイチゴ		実										実																		花
ヤブツバキ																				花										花
ヤマザクラ											花										花									
ヤマツツジ	花	花																												
ヤマハギ														花	花											花				
ヤマブキ											花										花									
ヤマボウシ		花	花終る									花	花	実	実							花		実						
ヤマモモ			実																											

観察された草本（１）

年	2014							2015										2016										2017		
月	4	5	6	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	9	10	11	12	1	2	3
日	25	20	17	18	16	19	17	15	20	18	16	21	18	10	15	12	10	14	18	17	15	12	15	15	13	17	15	18	16	16
アカツメクサ		花	花	花	花	花						花	花									花	花	花						
アカバナユウゲショウ		花	花	花								花	花	花								花	花							
アキノエノコログサ				花	花									花	花									花						
アキノゲシ				花	花										花									花						
アメリカフウロ		花	花																		花	花								
アレチヌスビトハギ				花	実																									
アレチハナガサ					花																									
イタドリ				実										花																
イチリンソウ	花																													
イヌガラシ			花																											
イヌゴマ				花																										
イヌタデ					花										花															
イヌホオズキ														花	花															
イノコズチ				花											花									花						
ウシハコベ						花																								
ウラシマソウ	花										花																			
エノコログサ																								花						
オオイヌノフグリ		花								花										花	花									花
オオニシキソウ				花	花									花										花						
オオバコ																							花							
オオブタクサ				花	花									花	花									花						
オカタツナミソウ		花																				花								
オッタチカタバミ																						花								
オニアザミ																							花							
オニタビラコ	花	花	花																		花	花								
オニドコロ																								花						
オヘビイチゴ																						花								
オヤブジラミ		花																												
オランダミミナグサ																					花									
カキドウシ	花										花																			
カゼクサ				花																				花						
カタバミ		花	花	花	花										花						花									
カナムグラ				花																				花						
カヤツリグサ														花										花						
カラスウリ						実																				実	実			
カラスノエンドウ	花										花									花	花	花								
カントウタンポポ	花										花																			
カントウヨメナ					花																					花				
キカラスウリ					実																									
キクイモ				花	花																			花						
ギシギシ																						花								
キツネアザミ		花																				花								
キツネノマゴ				花	花	花								花	花									花						
キュウリグサ	花	花																			花									
キランソウ	花										花										花									
キンエノコロ														花										花						
クズ				花										花										花						
ケキツネノボタン																						花								
ゲンノショウコ				花																				花						
コイケマ																								花						
コウゾリナ		花		花								花										花	花							
コセンダングサ															花															
コバンソウ																					花	花								
コヒルガオ		花	花										花										花							
サラシナショウマ					花																									
シオデ			花																											
ジシバリ		花																				花								
シラヤマギク														花																
シロツメクサ		花	花		花							花	花									花	花	花						
スイバ											花										花									
ススキ				花	花										花									花						
スズメノエンドウ																					花									
スズメノヒエ				花										花										花						
スズメノヤリ																					花									
セイタカアワダチソウ					花	花									花											花				
セイヨウアサガオ																								花						
セイヨウタンポポ		花	花	花	花					花	花		花		花					花	花	花	花							花
セイヨウミヤコグサ													花																	

観察された草本（２）

年	2014							2015										2016										2017		
月	4	5	6	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	9	10	11	12	1	2	3
日	25	20	17	18	16	19	17	15	20	18	16	21	18	10	15	12	10	14	18	17	15	12	15	15	13	17	15	18	16	16
セリ				花																										
タケニグサ													花																	
タチツボスミレ											花										花									
タマノカンアオイ																					花									
ダンドボロギク																								花						
チヂミザサ				花											花															
ツクシ										胞子体																				
ツユクサ			花	花									花	花	花								花	花						
ツルニガクサ				花																										
ツルボ				花										花										花						
トキワハゼ			花																		花									
ドクダミ			花									花											花							
ナガミヒナゲシ		花																			花									
ナズナ											花									花	花									花
ナルコユリ																					花									
ニガナ		花	花																			花								
ニラ				花	花																									
ニリンソウ	花										花										花									
ニワゼキショウ		花	花																			花								
ノアザミ		花	花										花									花								
ノハラアザミ																										花				
ノミノツズリ			花																		花	花								
ハエドクソウ			花										花										花							
ハキダメギク				花									花																	
ハナタデ					花																									
ハナニラ																					花									
ハハコグサ		花																					花							
ハルジオン																					花	花								
ヒガンバナ																								花						
ヒメオドリコソウ										花	花																			花
ヒメカンスゲ																				花										花
ヒメジョオン			花	花	花	花							花	花								花	花	花		花				
ヒメムカシヨモギ														花																
ヒヨドリバナ													蕾	花																
ヒルガオ		花											花																	
ブタナ		花	花	花	花							花	花	花	花							花	花	花						
フタリシズカ		花																												
フデリンドウ	花																													
ヘビイチゴ											花										花	花								
ヘラオオバコ			花									花										花	花							
ホタルブクロ													花																	
ホトケノザ										花										花										
マメグンバイナズナ																						花								
マルバスミレ											花										花									
ミズヒキ				花											花									花						
ミチタネツケバナ										花										花										花
ミツバツチグリ	花																				花									
ミミナグサ																				花										
ムラサキエノコロ					花																									
ムラサキケマン											花										花									
メヒシバ				花										花										花						
メマツヨイグサ																								花						
モジズリ													花										花							
ヤクシソウ															花															
ヤセウツボ			花										花										花							
ヤブガラシ													花									花								
ヤブタビラコ	花																				花	花								
ヤブマメ					花																									
ヤブラン				花										花										花						
ヤマホタルブクロ			花																				花							
ヤマホトトギス														花										花						
ユウガギク					花										花															
ヨウシュヤマゴボウ			花	花									花										花	花						
ワルナスビ			花	花									花	花										花						